

## めざす姿の実現に向けた取組方向

- (1) 留萌農業を支える多様な担い手・人材の育成・確保
- 円滑な就農に向けた受入体制整備、農業知識・技術早期習得の取組などを推進
  - 青年農業者組織の活性化に向けた支援や、女性農業者が活躍できる環境づくりを推進
  - 農業法人の経営発展に向けたセミナーの開催、家族経営体を支えるTMRセンターなど営農支援組織の育成・体質強化の取組を推進 など
- (2) 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立
- 基幹作物である水稻の基本技術の励行による収量・品質の向上や、低コスト・省力化栽培技術の導入を推進
  - 畑作物のほ場の透排水改善による収量・品質の向上や、野菜、果樹、花きの栽培技術向上に向けた取組を推進
  - 高品質で安全・安心な農産物の生産に向けた取組やスマート農業技術の導入支援、計画的な農業生産基盤整備を推進 など
- (3) 活力と魅力あふれる農業・農村づくり
- 関連企業との連携による高付加価値の取組を推進
  - 地場農産物の消費・販路拡大を図り、地元愛を高める地産地消を推進するとともに、留萌農業の情報や魅力を幅広く発信 など

## 令和4年度の取組状況

- (1) 留萌農業を支える多様な担い手・育成の人材の育成・確保
- 新規就農者の農業知識・技術の早期習得及び地域を越えた仲間づくりを進める「るもい農業基礎ゼミナール」を開講。
  - 管内4Hクラブ活動の1年間の成果等を発表する「ファーマーズトーク in RUMOI」について、遠別農業高校との共催にて実施。
  - 農業法人の経営安定化に向けた課題解決の一助とする「留萌管内農業法人情報交換会」の開催や、TMRセンターの経営安定を図るための「留萌管内TMRセンター情報交換会」を開催。
- (2) 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立
- 水稻の初期生育向上を目的とする育苗講習会の開催や、土壌診断結果に基づいた施肥設計などの基本技術の支援の他、病害虫発生予察に基づく適期防除の実施や、省力化技術である水稻直播の栽培管理技術向上の支援を実施。
  - カットドレーン等による透排水性改善において、生育調査および道総研と協力した調査を実施し、効果の確認と実証を行った。
  - 遠別農業高校のASIAGAPの維持審査に向けた支援や、スマート農業の推進に向けた現地研修会の開催のほか、水田の大区画化などの農業生産基盤整備を実施。
- (3) 活力と魅力あふれる農業・農村づくり
- 色素用紫さつまいもの安定生産に向けた栽培法や、ねばり長いもの販路確立に向けた生産者と販売者の連絡調整について支援を実施。
  - るもいフラワーウォーク、花きの収穫体験の取組により、るもい産花きの消費拡大、地産地消を推進したほか、首都圏にて「北海道るもいフェア」を開催し、るもい産農畜産物のPRを実施。



ファーマーズトーク①



ファーマーズトーク②



育苗講習会



水田の大区画化



花きの収穫体験

現状と課題

- 農家戸数の減少や労働力不足から新規就農者の育成・確保が喫緊の課題である。
- 規就農者が農業に関する知識や技術を学ぶ場が少ない。
- 新規就農者は地域に点在しており、地域外の農者と交流する場が少ない。

体制図

新規就農者

るもい農業基礎ゼミナールの開校

～めざすところ～

- ★農業の基礎的な技術や知識を取得する
- ★技術や経営の悩みを相談できる仲間をつくる
- ★農業や経営の仕組みを知る
- ★農業者として目標・夢を持ち、農村生活を楽しむ
- ★地域の良さを理解し、地域に愛着を持ち、情報を発信する

主催

- 留萌農業改良普及センター
- 留萌振興局農務課

協力

- JAるもい
- 各市町村
- るもい指導農業士・農業士会



取組成果と今後の展開

- 栽培管理技術の習得や、クミカンによる経営能力の向上が図られたことに加え、青年農業者同士が繋がる機会となった。
- 今後も、新規就農者・法人従業員の技術・知識の理解度向上や、青年農業者の繋がりを深めることによって、担い手の定着を目指す。

取組の概要




- 新規就農者の農業知識・技術早期の習得及び地域を越えた仲間づくりを進めるため、「るもい農業基礎ゼミナール」を開講している。

令和4年度の実施内容

- 留萌管内は、南北に細長く、経営形態も異なるため分校方式・コース別で開講

	中分校	南分校	畜産分校
コース名	耕種コース	耕種コース	酪農コース
受講対象者	9名	3名	1名

<各コースの研修内容と受講生の感想>

中分校・耕種コース(5回開催)	研修後の受講生の主な感想
 <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業、肥料の基礎・病虫害/雑草防除・水稻、畑作栽培基</li> </ul>	水稻の育苗をよくわからないまま任されてされていたが、勉強になった。分からないところを聞ける場ができてうれしい。等
南分校・耕種コース(4回開催)	研修後の受講生の主な感想
 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻の育苗</li> <li>・水稻の病虫害防除</li> <li>・土壌肥料、施肥設計</li> </ul>	すべての講義において時間が足りないくらいよく学ぶことができた。等
酪農分校・酪農コース(4回開催)	研修後の受講生の主な感想
 <ul style="list-style-type: none"> <li>・酪農の基礎</li> <li>・乳質について</li> <li>・飼料の種類</li> </ul>	ゼミナール受講をを機会に、もっと勉強したくなった。等

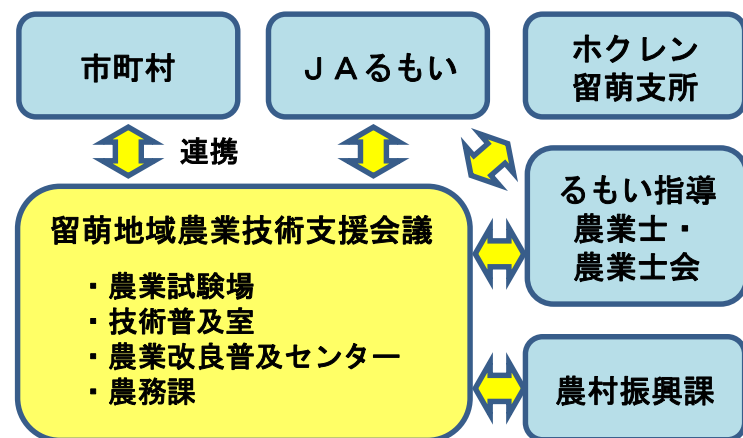
○ 全体講座では、経営を学ぶ第一歩として、12月7日に「クミカン制度の概要と個票の見方」をJAるもいの職員を講師として開講した。クミカン個票自体見たことがない受講生も多かったが、質問も多くあがり、経営への関心の高さがうかがえた。

○ 全てのコースの研修生を対象とした研修会として、7月11日「留萌管内青年農業者夏季交流研修」、12月13日「青年農業者交流研修会」を留萌管内4Hクラブ連絡協議会と合同で開催した。

## 現状と課題

- 農業者の減少・高齢化進行に加え、ゼロカーボンなど環境負荷低減への機運が高まっている。
- 継続的な取組実施には、各機関の情報・方針を統合し段階的に進める必要がある。
- るもい地域は、不整形地や傾斜地等の中山間地域が主体で、スマート農業の普及も遅れているため、地域に適したスマート農業技術を体系化、周知するなどして、機械導入等のハードルを下げる必要がある。

## 体制図

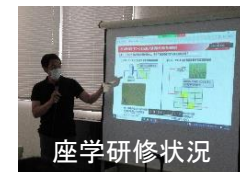


## 取組の概要

- R4年度は留萌地域技術支援会議を中心に、農政部畜産振興課や、るもい指導農業士・農業士会と連携して、農業者及び関係者等を参集し、スマート農業の現地研修会を行った。

## 令和4年度の実施内容

- ICTを活用した草地管理に係る現地研修会  
月日：令和4年8月3日（水）  
場所：遠別町  
内容：牧草の品質と収量確保に不可欠な草地の植生改善の省力化に向け、センシングや自動操舵システムなどのICT技術を活用した技術について研修した。
- オート・ロボットトラクター現地研修会  
月日：令和4年8月4日（木）  
場所：羽幌町  
内容：るもい指導農業士・農業士会と共催し、自動操舵トラクタの実演等の研修を行ったほか、アンケートにて農業者や団体職員の意向調査を実施した。



座学研修状況



実演研修状況

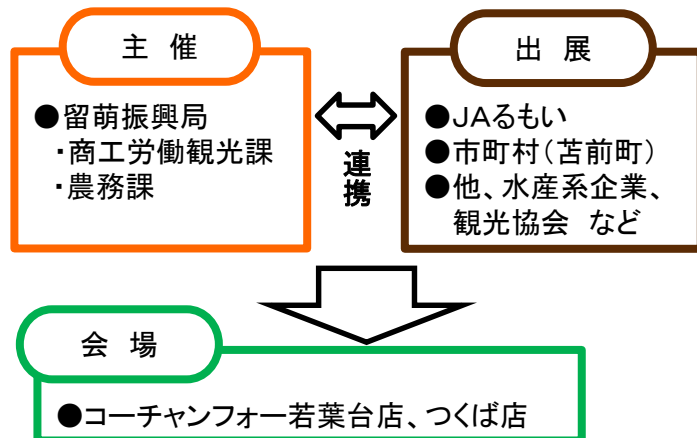
## 取組成果と今後の展開

- 草地管理研修会には42名、ロボットトラクター研修会には33名の参加があり、会場での実演や、現場での意見交換により意識の醸成が図られた。また、事後アンケートでは、今後も同様の研修会を開催してほしいといった意見が寄せられた。
- 令和5年度以降は、るもい地域に適したスマート農業の実現に向け、振興局独自事業を新規に立ち上げ、JA・市町村等と共に、スマート農業技術の体系化や普及に取り組んでいく。

現状と課題

- 「るもい」地域は多種多様な農畜産物を生産しているものの、統一ブランドが無く、農畜産物の認知度は低い。
- 「北海道」の認知度は高い一方で、全国的にも道内においても「るもい」地域自体の認知度は低い。
- R3.2のJA合併、R4.5のJAと8市町村との包括連携協定締結により、管内一円で取り組む機運が高まっている。
- 「るもい」ブランドの継続的な発展には、市町村やJAとの連携が不可欠となっている。

体制図



取組の概要

- 令和4年度は、道経済部事業を活用して、首都圏にて「北海道るもいフェア」を開催するとともに、JA・市町村と連携して農畜産物のPRイベントを実施した。

令和4年度の実施内容

- 「北海道るもいフェア」  
月日：令和4年12月1～25日  
場所：コーチャンフォー 若葉台店（東京都、つくば店（茨城県）  
出展：JAるもい、留萌観光協会など



上記フェアの内「農畜産物PRイベント」

- 月日：令和4年12月10,11日（土・日）  
場所：コーチャンフォー若葉台店  
内容：JAるもい・苫前町・農務課が、来店者に対し、広報資料の配布、苫前産米のプレゼント、JA公式SNSへの勧誘等に取り組み、るもい産農畜産物をPRした



PRブース出展状況

取組成果と今後の展開

- 農畜産物・水産物等を含めた25日間のフェア全体で約220万円を売上げたほか、PRを行った2日間では、約1000部の広報資料を配布したことに加え、JA公式SNSのフォロワーが約500人増加した。
- 令和5年度以降は、「るもい」ブランドの発展に向け、振興局独自事業を新規に立ち上げて、JA・市町村と共に、るもい産農畜産物の認知度向上や販路拡大の取組を推進していく。



めざす姿の実現に向けた取組方向

- (1) 多様な経営体の生産性向上をめざす
  - 補助事業を活用し、経営方針に適した草地整備や牛舎等の施設整備、機械導入を推進する
  - 草地の生産性向上に向けた草地更新の促進や植生改善、乳牛の飼養環境の改善等に取り組む
  - コントラクターや公共牧場など、地域の営農支援組織の充実を図り、外部化・効率化等を進める
- (2) 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域をめざす
  - 新規就農者を確保・育成するため、就農セミナーの実施や、酪農経営における知識を高める研修等を実施する
  - 農泊など、農村地域の魅力を伝える取組を推進するとともに、都市と農村の交流活動を促進する
  - 住みやすい酪農地域となるように、研修機会などを通じた交流促進を図り、地域のコミュニティ機能を高める

令和4年度の取組状況

- (1) 多様な経営体の生産性向上をめざす
  - 補助事業を活用した草地整備や施設整備等の推進  
 草地整備による草地の不陸や排水不良の改善を図り、粗飼料の品質・生産性の向上を推進。  
 また、生乳生産基盤の維持・拡大に向け、新規参入者の受入に向けた牛舎等の補改修、機械導入を推進。
  - 地域の営農支援組織の充実化  
 農業経営体の労働力を補完するTMRセンターなどの営農支援組織の活動支援とともに、補助事業の活用により公共牧場の哺育・育成施設等の規模拡大を推し進め、農作業の分業化を促進し、農業者が搾乳に専念できる体制づくりを推進。
- (2) 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域をめざす
  - 新規就農者の確保・育成  
 道内外の大学生や地元高校生など進路選択期にある若者を対象に、多様な人材の確保に向けて地域や農業の魅力をPR。  
 また、新規就農者に加え、雇用就農者や酪農ヘルパーなど、対象を幅広く設定し、次代の農業を担う人材育成に向けた研修の場を設け、先輩農業者との懇談も交えながら、地域交流の促進や相談しやすい環境づくりを推進。
  - 都市・農村交流の促進と地域コミュニティ機能の強化  
 チーズづくり体験会の開催などによる、宗谷の酪農・農村及び牛乳製品の魅力発信と交流の場づくりを推進。



整地後の播種状況



公共牧場の規模拡大に向けた堆肥舎の建設



大学でのセミナー



新規就農者等向け研修



チーズづくり体験会

現状と課題

● 酪農の現状

近年、農業従事者の高齢化による離農が進んでおり、生乳生産量が減少傾向となっている。

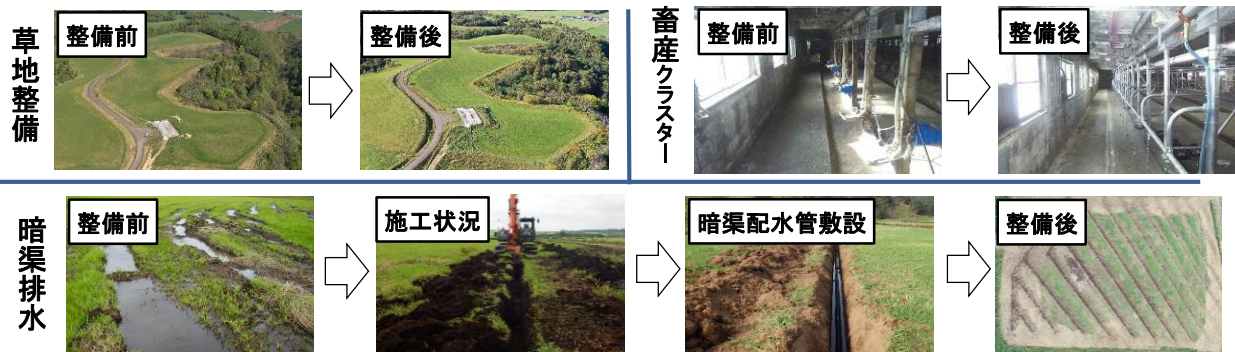
● 地域の課題

草地の基盤整備や植生改善、乳牛の能力を最大限に発揮する飼養管理の徹底など、地域の強みを活かした生産性向上への取組が十分に進んでおらず、また、経営継続に向けた草地や施設・機械への投資が進んでいない。

取組の概要

○ 補助事業の有効活用

- ・ 良質な自給飼料を確保するため、草地畜産基盤整備事業を実施し、草地の起伏修正や排水不良の改善を図り、草地の生産性を向上。
- ・ 地域の生産基盤を維持するため、畜産クラスター事業を活用し、新規就農に向けた離農跡地の畜舎等の補改修や機械導入、乳牛の導入を支援。

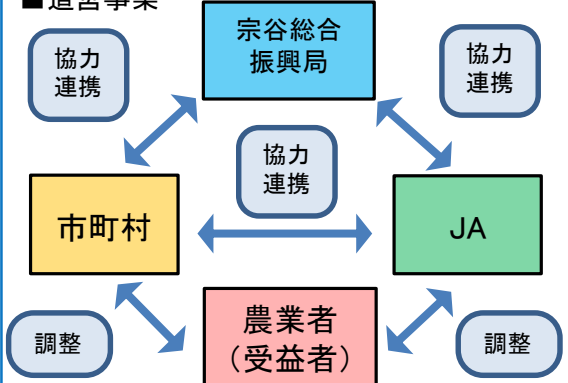


○ 営農支援組織の充実化

- ・ 猿払村の公共牧場に、規模拡大に伴い必要となる堆肥舎を建設し、哺育・育成の外部化・効率化を推進。
- ・ 管内のTMRセンターで組織される「宗谷TMRセンター連絡会」の運営支援を行うとともに、施策に係る情報提供や意見交換を実施。

体制図

■ 道営事業



取組成果と今後の展開

- 管内10地区(道営⑥、公社営④)で1,185.4haの草地整備、162.1haの暗渠排水整備を実施し草地の生産性が向上するとともに、新規就農者5戸が入植することで生産基盤の安定化につながった。
- 酪農生産基盤の維持・拡大に向け、引き続き、補助事業を活用した草地等の整備を推進するとともに、草地整備に係るより省力的な技術導入の検討や、新規就農者の経営安定に向けた技術支援、営農支援組織の運営改善・活動支援などに取り組む。

現状と課題

- 農家戸数の減少  
毎年約20戸の離農に対し、新規就農は約15名（うち新規参入は約4名）。また、1戸当たり乳牛飼養頭数は年々増加しており、家族経営の維持に限界。
  - 酪農産業の人材不足  
酪農ヘルパーや農業法人、コントラクター等の支援組織における雇用労働力の確保も不十分。
  - 知名度の低さ  
管内は農地が安く新規参入に有利な反面、水産のイメージが先行し、酪農地帯としての知名度が低い。
  - 担い手の育成環境  
管内には農業高校をはじめ農業系の大学や専門学校がなく、他地域で見られる研修牧場等を核とした受入体制も未整備。
- ⇒ ① 道内外に向けた積極的・継続的なPRや誘致活動による新規就農及び酪農関連産業の人材確保
- ② 多様な担い手・人材を対象とした研修・交流機会を通じた次代の担い手育成及び地域コミュニティの活性化が重要

体制図

宗谷管内地域担い手推進会議

各地域担い手センター（市町村）、各J A、振興局農務課・普及センター（事務局）

J A道中央会旭川支所、道農業公社道北支所、ホクレン稚内支所、技術普及室（天北支場）

各地域の取組と連携した管内一体的な取組を推進

取組協力  
・意見

《生産者》  
宗谷管内  
指導農業士・  
農業士会

情報共有・意見集約

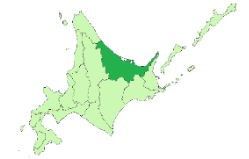
取組の概要

- 宗谷酪農をPRする「宗谷酪農セミナー」の開催
  - ・ 道内外の農業系大学生を対象に宗谷管内のPRや酪農・関連職業の紹介、市町村による実習 受入などの相談対応を実施。
- 研修会「SOYALルーキーズ☆カレッジ」の実施
  - ・ 新規就農者や雇用就農者、酪農ヘルパーなどを対象にした研修会を実施。
  - ・ 基礎的な技術・知識の習得や先輩農業者との座談会、研修講師となった関係機関職員との交流などを通じ、地域農業に携わる人同士の関係性の構築・強化を促進。
- 新規就農イベントへの出展
  - ・ 都市部で開催される一般向け就農・就職相談会に振興局として出展し、市町村等の出展ブースと連携して呼び込み活動を実施。
- 宗谷チーズづくり体験会の実施
  - ・ 首都圏等の農業系大学生が酪農体験実習で来訪している機会にあわせ、酪農家を講師としたチーズづくり体験会を開催することで、酪農に興味を持つ若者に対し、宗谷酪農の魅力をPR。
- その他
  - ・ 地元普通高校における出前授業や、女性農業者グループが行う研修・情報発信などの取組支援を実施。



取組成果と今後の展開

- 「宗谷酪農セミナー」を道内外の4大学で開催。計365名が参加したほか、うち27名が酪農体験実習で来宗するなど効果的なPRにつながった。
- 農業の担い手や宗谷酪農を支える人材を確保していくため、進路選択期の学生に対して、就農や関連職業の紹介、就農間もない農業者等への研修などを継続して開催していく。



めざす姿の実現に向けた取組方向

(1) 持続可能で先進的な農業の展開

- 豆類の振興など適正な輪作体系の確立
- ジャガイモシストセンチュウ類などの早期発見・まん延防止対策などの管内一体となった取組
- スマート農業技術など先進技術の効果的導入
- 農業生産基盤の計画的な整備

(2) 経営体を支えるシステムの推進

- 営農支援組織の育成強化など

(3) オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着

- 管内一体となった新規就農等のPR、受入体制構築
- 農業系大学や高校と連携した就農や農業関連産業への就業意欲の向上の取組
- 農業生産や選果場など関連施設を支える多様な人材の確保・定着

(4) オホーツク農業のブランド力向上

- オホーツク産農畜産物の付加価値向上、魅力発信、ブランド力向上

令和4年度の取組状況

(1) 持続可能で先進的な農業の展開

- 豆類の新規作付・生産拡大に向け、各種事業活用等による機械導入(9市町33件)・施設整備(1件)を支援
- 農業団体や各産地が実施するセンチュウ対策の取組に対して助言などの支援を実施
- 事業を活用したスマート農業機器の導入支援(3地区)
- 3月にスマート農業セミナーを開催し、農業者への技術普及を実施予定
- 搾乳ロボット、自動給餌機、哺乳ロボットなどの省力化、飼養管理技術の高度化に資する機械導入支援(5市町7件)
- 61地区(3市13町1村)において、ほ場の区画整理、用排水路整備、農道整備など基盤整備を実施

(2) 経営体を支えるシステムの推進

- コントラクターや利用組合、農業法人が行う機械導入に対し、事業活用等による支援を実施(10市町 52件)
- 畜産クラスター事業を活用し、遠軽町で哺育育成センター整備

(3) オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着

- マイナビ主催「マイナビ農林水産FEST」に出展(6月26日大阪、11月23日札幌)
- 7月20日に美幌高校、11月16日に大空高校で出前授業を実施
- 9月29日に退職予定自衛官の農業分野における職場体験会を開催
- 11月1日及び8日に東京農業大学生向けの就農セミナー開催
- 1月14日、ツナググループHC主催「新・農業人フェア」(東京)に出展
- 1月27日にオホーツク地域就農者対策会議と農業経営における雇用管理研修会を開催



【大空高校出前授業】

(4) オホーツク農業のブランド力向上

- 7月23日～10月31日の期間で、オホーツクスイーツ&ミルクスタンプラリー2022を実施(賞品応募総数:道内外から431名)
- 普及センターが中心となり、管内農業者向けに高付加価値化研修会を2回開催(12月22日、1月24日)





現状と課題

- 管内の農家戸数は平成27年から令和12年までに34%減少する予想
- 離農跡地を周辺農家が引き受けることによる1戸あたりの耕地面積の一層拡大
- 人手不足などから今後、遊休農地の発生が懸念
- 人口減少による農村の集落機能の低下が懸念

体制図

○オホーツク新規就農者対策会議

オホーツク新規就農者対策会議  
市町村・農業委員会・JA  
中央会北見支所  
ホクレン北見支所  
オホーツク農協連  
日本政策金融公庫北見支店  
オホーツク総合振興局農務課

情報共有

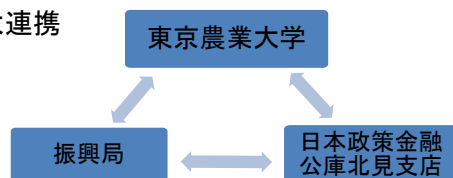
振興局  
オホーツク農協連  
市町村等

一体的なPR

相談

新規参入希望者

○東農大連携



取組の概要

- 管内一体となった新規就農等のPR、受入体制の構築
  - ・ 振興局独自事業「農村を支える多様な担い手確保推進事業」を活用し、各地域の新規就農対策や就農可能地等の情報を共有するため、「オホーツク新規就農者対策連絡会議」を令和5年1月27日に開催
  - ・ 併せて、農業経営における雇用管理研修会を開催
  - ・ 新規就農希望者等をオホーツク管内に呼び込むPRを行うため、オホーツク農協連と連携し、マイナビ主催の「マイナビ農林水産FEST」に出展(6月26日 大阪会場、11月23日 札幌会場)
- 農業系大学・高校と連携した学生の農業への理解促進と就農や農業関連産業への就業意欲向上
  - ・ 東京農業大学オホーツクキャンパス、日本政策金融公庫北見支店と連携し、東農大生向けの就農セミナーを11月1日、8日に開催
  - ・ 青年新規就農者確保対策事業を活用し「農業高校等出前授業」を開催【美幌高校(7月20日)】津別町の川瀬牧場、(株)希来里ファームを訪問【大空高校(11月16日)】網走市東藻琴地区の長芋選果場を訪問
- 農業生産、選果場など関連施設を支える多様な人材の確保・定着
  - ・ 退職年齢が若い自衛官に対して、再就職先として農業があることを紹介するため、「退職 予定自衛官の農業分野における現場体験会」を9月29日に開催【参加隊員数】5名【施設見学等場所】(株)北海道畜産公社北見工場 (株)希来里ファーム(津別町)



取組成果と今後の展開

- 新規就農等のPR後には、管内市町村に新規就農等についての問い合わせがあり、就農に向けた研修に繋がっている。就農セミナーや出前授業では、農業に対して興味や就農意欲をもち、毎年、数名は新規就農や農業関係の仕事に就職している。退職予定自衛官については、農作業を体験することによって、就職後のイメージに繋がりを、農業分野を再就職先として選択するきっかけとなり、毎年、数名は農業関係の仕事に就職している。
- 管内市町村やJAと連携し、各地域の情報共有を行いながら、オホーツク全体として、新規就農希望者に向けたPRを継続していく。引き続き、就農セミナーや農作業体験会を実施し、農業の魅力を知ってもらい、新規就農等に繋げていく。

現状と課題

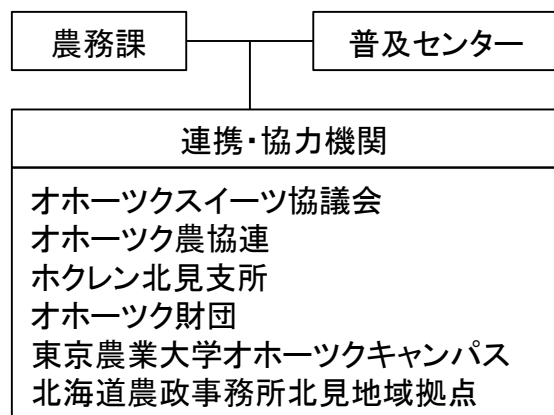
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、外食産業や観光業などで業務向けの需要が大きく減少
- 食料の安定供給の重要性、地域の食の魅力を見つめ直す機会になっている。
- オホーツク管内は、原料作物生産が多いため、農業の認知度が低く、付加価値向上の取組が少ない。

【オホーツク地域に係る認知度・魅力度調査】

農業が盛ん: 13.1%、水産業が盛ん: 40.1%  
※オホーツクAI推進協議会実施

(事務局: 振興局地域政策課)

体制図



取組の概要

○ オホーツクスイーツ&ミルクスタンプラリー2022

スタンプラリーを通して、消費者に対し、オホーツクの農業・農村・農畜産物の魅力を再発信し、認知度向上、付加価値向上につなげるため実施。

【開催期間】令和4年11月23日～10月31日

【参加店舗】管内のパン、菓子・洋菓子店、牛乳乳製品製造・販売店のうち48店舗(管内全18市町村に店舗あり)

【賞品応募総数】431件(うち、全店舗制覇35名)



○ 豆キュン♡プロジェクト

オホーツク管内の飲食店、菓子店等実需者に、オホーツク産豆類を使用したメニュー・商品開発をしてもらい、販売いただくことで、管内産豆類の利用拡大及び消費拡大につなげるため実施。

【応募店舗】飲食店3店、菓子店等4店

【試作期間】令和5年1月中旬～2月中旬

【販売予定期間】令和5年3月より2週間以上

※食レポ動画配信等によるPRを予定



○ 農業者等のための付加価値向上研修会

普及センターを中心に、農業者の付加価値向上の取組を進めるため、毎年研修会を開催。

【令和4年度の研修会】

テーマ: 直売所の作り方講座

開催日: 令和4年12月22日、令和5年1月24日

講師: (株)渡辺農事北海道営業所 所長 安達英人氏

北海道カラーデザイン研究室 代表 外崎由香氏



取組成果と今後の展開

- スタンプラリーでは、参加者からお店の新規開拓ができたという声が多数寄せられ、参加店舗からも来客数の増加やリピーター増加につながったという声が多数届いており、オホーツク産農畜産物を使用した商品の消費拡大につながっている。
- 今後も、オホーツク農業の認知度向上、農畜産物の付加価値向上に向け、関連団体等と連携し、消費者向けのPR及び実需者における利用拡大に取り組む。



めざす姿の実現に向けた取組方向

(1) 多様な人材が活躍する農業・農村

- 道立農業大学校など農業専門の教育機関と連携した就農・就業支援
- 農業法人や関連産業、営農支援組織などの就業環境整備
- 自衛隊など異業種からの人材確保に向けた取組や農福連携等の促進

(2) 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

- 近代的な生産施設に加え、ほ場の大区画化等の土地基盤整備の推進、貯蔵・流通体制の強化
- 耕畜連携による土づくりや農業研究機関等と連携した生産技術の向上、安全・安心な食の促進

(3) ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大

- 道内唯一の北米・EU向け食肉加工処理施設等を活かした輸出拡大の推進
- 産地一体となった6次産業化など付加価値向上の取組の推進
- 安全・安心な食を供給する「十勝」を世界に通用するブランドとする取組強化

(4) 新たな価値を生み出す科学技術等の活用

- 生産性の高い土地基盤等を活かしたICTやロボットなどの先端技術の導入促進
- 畜産経営の大規模化に対応したバイオマス利活用と耕種経営との連携強化

令和4年度の取組状況

(1) 多様な人材が活躍する農業・農村

- 農業高校生等を対象とした指導農業士等の農場等で現地研修を実施。
- 農業労働力の確保、労務管理をテーマとした農業経営セミナーを開催。
- 退職予定自衛官を対象としたインターンシップや補導教育、農福連携シンポジウムを開催。



退職予定自衛官を対象とした補導教育

(2) 安定的な食料の生産・供給拠点の形成

- 農業生産の高品質・高付加価値化や低コスト化の推進及び自給飼料生産拡大、循環型社会構築のために必要な施設整備等を支援。
- とかちオーガニック振興会による有機農業現地研修会等の開催。

(3) ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大

- 最新の輸出関連情報を提供する輸出拡大ステップアップセミナーの開催。
- 国際水準GAPの実施、第三者認証取得の推進



とかちオーガニック振興会現地研修会

(4) 新たな価値を生み出す科学技術等の活用

- 技術支援会議構成機関と十勝農協連が連携し、「十勝畑作地帯における施肥実態調査」を実施。
- バイオガスプラントから発生する消化液の畑作利用について、散布実証や実証結果をとりまとめた冊子を作成。
- 消化液の利用実態調査を実施。

現状と課題

○農業側

農業法人の従業員や農業支援組織等の担い手が不足

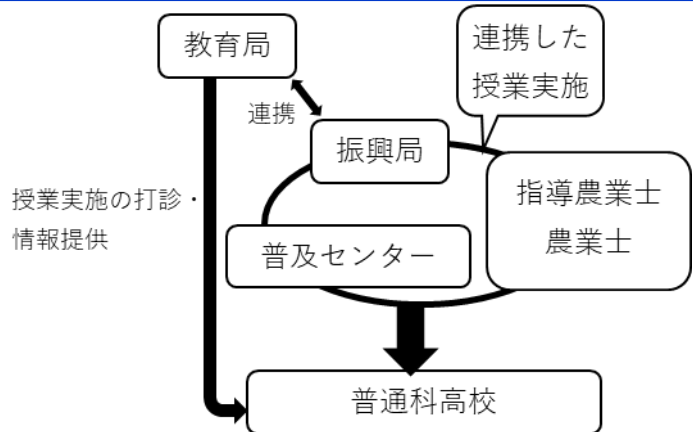
○普通科高校側

非農家出身の生徒の、農業に対する関心が薄く、農業関係の仕事が選択されにくい。



農業現場での多様な人材の確保に向けて、農業に関わりが少ない層に対し、農業を職業選択のひとつとして考えてもらえるような取組が必要

体制図



取組の概要

目標

これまで農業に関わりが少なかった層に対して、農業関連の仕事や市町村の魅力伝えることで、十勝の農業に興味・関心を持ち、農業や、農業に関わる仕事を将来の職業選択のひとつとしてもらう。

令和4年度の取組

普段、農業と関わりの少ない普通科高校(音更高校)の1年生(93名)を対象に、出前授業や農場見学などを行った。(全3)

<授業内容>

第1回 プレ授業

テーマ:「農業を知ろう」

内容:農務課と普及センターの職員が、農業の基本知識や、十勝農業の概要や農家の仕事、農業に関わる仕事などを説明。

第2回 農場見学

テーマ:「農場を見てみよう」

内容:農業への理解を深めるため農業大学校や管内の指導農業士・農業士の農場を見学。



第3回 出前授業

テーマ:「十勝のすばらしさ、農業をとおした人とのつながり」

内容:管内の指導農業士・農業士を講師に招き、農業を通じた人とのつながりや、地域を盛り上げる取組、農業を志すきっかけなどについての講演とパネルディスカッションを実施。



取組成果と今後の展開

- 開催前は農業に対して「きつそう」や「仕事が退屈そう」といったネガティブな印象を持つ学生が多かったが、回を重ねるごとに「印象が良くなった」との回答が増え、2回目の授業終了後は30%、3回目の授業終了後では40%となった。
- 農業に対する印象が良くなった一方で、農業分野への進学や就職を検討する生徒は少ないことから、普通科高校への農業に対する理解や関心を高める取組を継続して行っていく。

現状と課題

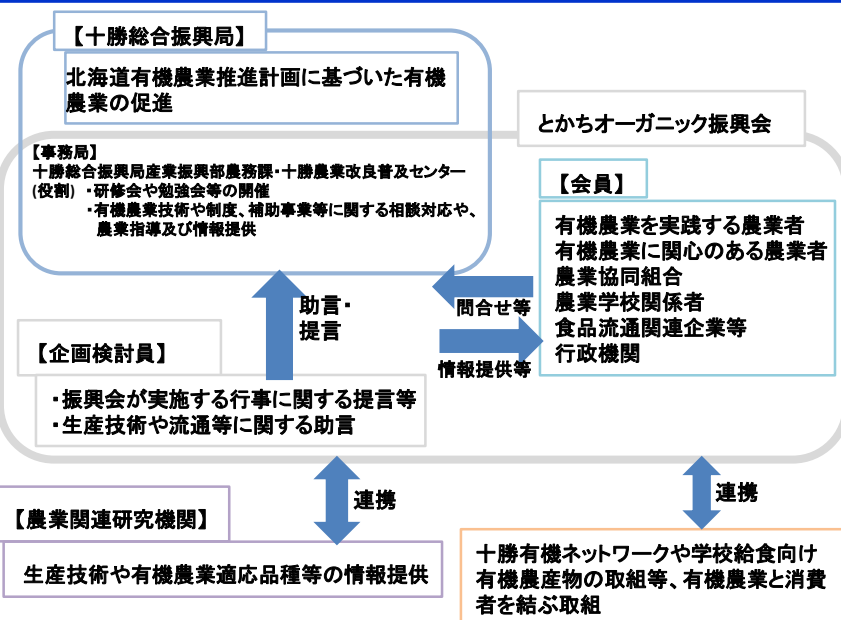
- 平成17年から有機JAS認証を取得した生産者が主体となり、「十勝有機ネットワーク」という組織を立ち上げ、消費者との交流会などを開催。
- 有機農業の栽培技術は、生産者が試行錯誤を繰り返しながら、その土地の気候や土壌に合った栽培法を年月をかけて独自に有機農業技術を習得。
- 有機農業を始めようとする生産者が相談する受け皿がない。

取組の概要

- とかちオーガニック振興会の設立(令和3年12月23日)
  - ・十勝において有機農業の機運醸成と、有機農業に関する農業者間の交流機会を創出することを目的として会を設立。
  - ・事務局を振興局農務課と農業改良普及センターに置き、アドバイザーとして6名の有機農業者が参画。
- とかちオーガニック振興会 第1回現地研修会の開催
  - ・開催日:令和4年7月15日(金)
  - ・開催目的:有機農業を実践する農業者及び有機農業に関心のある農業者が生産技術等の情報交換等を行う場として現地研修会を開催。
  - ・開催農場:いずみ農園(参加者8名)  
小笠原農園(参加者5名)  
折笠農場(参加者9名)
  - ・開催後アンケート調査を実施(回答数20)
- 学校給食関係者等との意見交換会の開催(予定)
  - ・開催日:令和5年2月22日(水)
  - ・開催目的:大人のみならず子供たちにも有機農業に対する理解促進や有機農産物を知ってもらうため、普段子供達の食事を提供する学校給食関係者を対象として意見交換会や試食会等を実施。
  - ・開催内容:有機農業をめぐる情勢、取組事例発表、意見交換会、有機農産物を利用した給食メニューの試食会

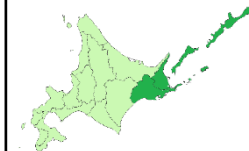


体制図



取組成果と今後の展開

- 現地研修会開催後のアンケートでは、「実態がわかり大変参考になった」、「有機の難しさや必要性をより感じた」などすべての回答で好意的な意見が出ており、有機農業に対する理解や関心を高めることができた。
- 今後も、現地研修会などを開催し、生産者同士の交流や有機栽培技術の情報交換を行い、環境保全型農業(脱炭素、環境負荷低減)の推進に取り組む。



めざす姿の実現に向けた取組方向

(1) 草地型(循環型)酪農の推進

- 草地の適正管理や草地整備改良事業の計画的な実施
- 生涯生産性の向上に向けた乳牛等の遺伝的改良や疾病軽減対策の推進
- 家畜排せつ物の適切な処理・還元などによる、環境や家畜にもやさしい農業経営の推進

(2) 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保

- 規模拡大、中小規模経営維持、施設園芸や肉牛への参入等多様な担い手の育成確保の推進
- 後継者の育成や配偶者の確保への取組推進、女性・高齢者がより活躍できる環境の整備
- スマート農業技術の導入や営農支援組織の育成・強化による、低コストでゆとりある経営の確立
- 新規参入者の広域的な受入体制の整備や第三者経営継承に向けた仕組みづくりの推進
- 雇用人材が安心して働き続けられる環境の整備
- 災害等に発生に備えた組織継続体制の構築と営農支援体制の確立

(3) 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求

- 6次産業化や高収益作物の導入の推進
- 受精卵移植等による和牛生産拡大や育成・肥育の飼養管理技術の向上
- 地域インフラ活用による「食と観光」の魅力発信

令和4年度の取組状況

(1) 草地型(循環型)酪農の推進

- ・ 道営草地整備事業及び公社営事業における施工時期の平準化を推進した。

		R2年度		R3年度		R4年度	
釧路 根室 合計	整備量	3,390 ha		3,248 ha		2,637 ha	
	夏施工	2,386 ha	平準化率	2,062 ha	平準化率	1,550 ha	平準化率
	春秋施工	1,004 ha	30%	1,186 ha	37%	1,087 ha	41%

- ・ 根室地域農業技術支援会議において、「草地改良時期の分散化(麦類同伴)」をプロジェクト課題として位置づけ、先行事例の収集や実証試験を令和2年度から実施しており、令和4年度においても試験圃場での調査を継続。令和5年度はデータを検証するとともに、その成果を地域に普及していく。



試験圃場の様子

(2) 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保

- ・ 根釧両(総合)振興局では、市町村やJAが連携し、より多くの人材確保の機会を創出するため、令和5年1月に「根釧独自就農フェア(東京都での現地開催、オンライン併用)」の開催を予定しているほか、併せて関東圏の農業高校等への学校訪問を予定している。
- ・ 釧路総合振興局では、「北海道『釧路』就農相談会」を令和4年10月に東京都、11月に大阪府で開催した。農協等6つの団体が参加し、牧場等への就職、新規就農のほか、生活環境などについて相談対応を行った。
- ・ 根室振興局では、令和4年11月に管内の農業系高校生を対象に就農意欲の向上を目的として、農業関係施設の視察研修を実施した。



釧路就農相談会



根室出前授業



展示状況

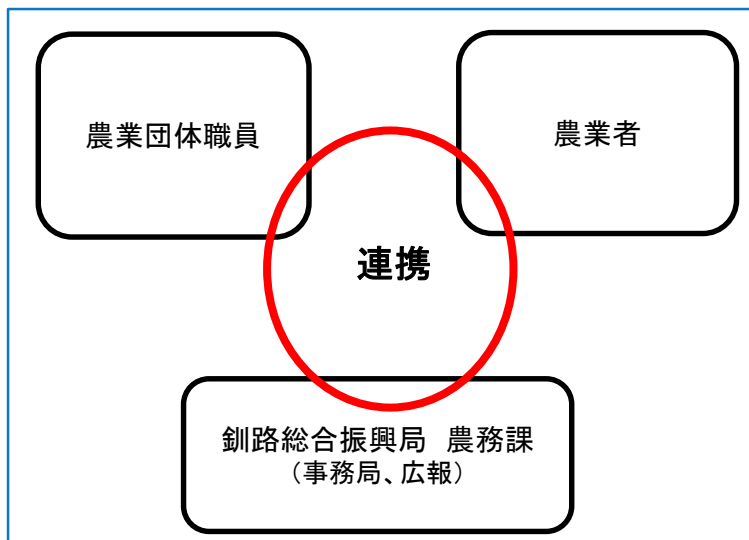
(3) 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求

- ・ 釧路総合振興局では、管内産牛乳・乳製品の魅力を広く発信するため、令和4年5月に「釧路デーリコンシェルジュ」の活動の一環として店頭でパネル展を行った。10月～12月には、管内チーズ工房と菓子・飲食店が連携し、独自のメニューを提供する「チーズなスイーツフェア inくしろ」を開催した。

現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に伴い、牛乳・乳製品の需要が低調に推移。
- コロナの影響で小売店では試食提供を控える傾向があり、消費者に牛乳・乳製品のPRができていない状況。

体制図



取組の概要

釧路デーリコンシェルジュの取組

(デーリィ→乳製品の、コンシェルジュ→サービスを提供するプロ)

農業者、農業団体職員(ホクレン、農協中央会、釧路農協連)及び振興局職員が、釧路管内産の生乳を使用して製造された商品の味、美味しい食べ方、製造方法、生産者の思いなどを理解した上で、消費者に魅力を発信する取組を行った。

- イオン釧路店でのPR (令和3年10月27日～31日(5日間))  
21名のコンシェルジュにより、来店客に管内牛乳・乳製品の良さや商品の魅力を発信し、315個の試供品を来店客に配布した。
- チーズパーティでのPR(令和3年12月15日)  
釧路市内のホテルで開催されたチーズパーティにおいて、コンシェルジュ4名が管内産チーズの特徴や美味しく食べる方法を紹介した。
- 釧路デーリィディスプレイ(令和4年4月23日～5月8日(16日間))  
イオンモール釧路昭和店で牛乳・乳製品の消費拡大を図るポスターや釧路管内産の牛乳のパッケージの展示のほか、乳和食レシピやソフトクリームマップなどの配布を行った。



イオン釧路昭和店での展示状況

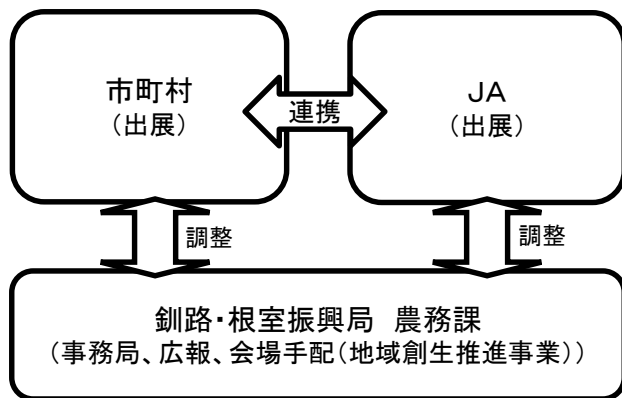
取組成果と今後の展開

- イベントの来店客のほか、報道機関を通じた情報発信により、多くの消費者に釧路管内産の牛乳・乳製品の魅力をPRできた。
- 効果的に牛乳・乳製品の消費を推進できるように、様々な手法を検討していく。

現状と課題

- 釧路・根室地域の新規就農者数は全道と同様に減少傾向にある。
- 各市町村・JAは、新規就農者確保のため大都市圏で開催される「新農業人フェア」等に出展し、PR活動を展開してきた。
- その一方、他県・他地域との合同開催であり、従来の「新農業人フェア」等では十分なPR効果を得られないことから、根釧地域に特化した出展機会を求める声があがっていた。

体制図



取組の概要

釧路・根室両振興局管内の市町村・JAが連携し、令和元年度より根釧地域独自の就農フェアを開催

- 令和元年度(令和2年1月24日)
  - ・ 現地開催(ふるさと回帰支援センター(東京都))
  - ・ 各市町村・JAが設ける対面式ブースにて就農相談
- 令和2年度(令和3年2月6日)
  - ・ オンライン開催
  - ・ 根釧酪農の魅力紹介セミナー(酪農YouTuber 浅野達彦氏)
  - ・ 個別相談(酪農の仕事や就農相談に市町村・JAが対応)
- 令和3年度(令和4年1月28日)
  - ・ オンライン開催
  - ・ 根釧酪農の魅力紹介セミナー(新規就農者 稗田氏と酪農YouTuber浅野氏の対談)
  - ・ 個別相談(酪農の仕事や就農相談に市町村・JAが対応)
- 令和4年度(令和5年1月15日)
  - ・ ハイブリッド開催(ふるさと回帰支援センター(東京都))
  - ・ 各市町村・JAが設ける対面式ブースとオンラインによる就農相談



取組成果と今後の展開

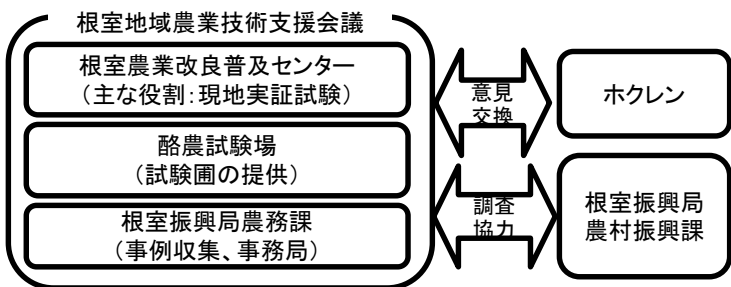
- これまでに4回の相談会等を実施し、計23組27名の相談があった。
- これまでの相談では、個別相談で9割が「満足」、「やや満足」と高い評価があり、参加者の8割は翌年度も参加を希望している。
- 最近の厳しい酪農情勢の影響から新規相談数が減少しているため、就農フェアの開催方法を工夫しながら、今後とも新規就農者の確保に取り組む。



現状と課題

- 釧路・根室地域では自給飼料に立脚した草地型酪農を展開するため、道営・公社営等による草地整備改良事業を推進。
- 施工機械の老朽化やオペレータの高齢化により施工能力が低下するなか、施工時期が1番草収穫後の7～8月に集中。要因として草地整備当年の粗飼料確保量の不足が挙げられる。
- 麦類同伴栽培により、十分な粗飼料(麦)を確保しつつ施工時期の分散化が期待されるが、管内での取組事例が少なく、実証試験を通じた技術構築が課題。

体制図

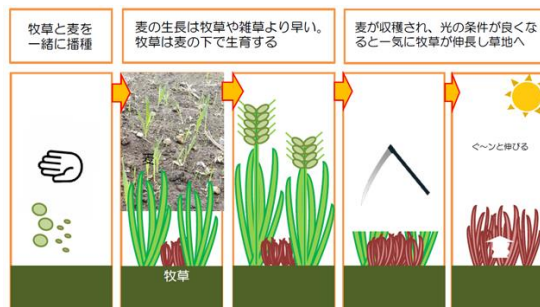


取組の概要

- 麦類同伴栽培は、牧草と麦類の種を同時に播く栽培技術であり、以下のような効果が期待されている。
  - ・ 雑草の繁茂を抑制できる
  - ・ 整備当年に1番草に代わる飼料(麦)を確保できる
  - ・ 整備翌年の牧草収量が多く、植生の良い草地となる
- 根室地域農業技術支援会議では、草地改良時期の分散化(麦類同伴)をプロジェクト課題として位置づけ、令和2年度より取組を開始。令和6年度からの普及推進を目指し、実証試験や意見交換を重ねている。

主な取組実績及び予定

R2	事例調査、実証調査(～R4まで継続)
R3	関係機関意見交換会開催
R4	関係機関意見交換会開催
R5	調査結果検証、普及パンフレット作成
R6～	普及推進活動



麦同伴栽培の概要

(ホクレン作成資料\_令和2年度麦類同伴栽培に係る意見交換会)



試験圃での作業状況

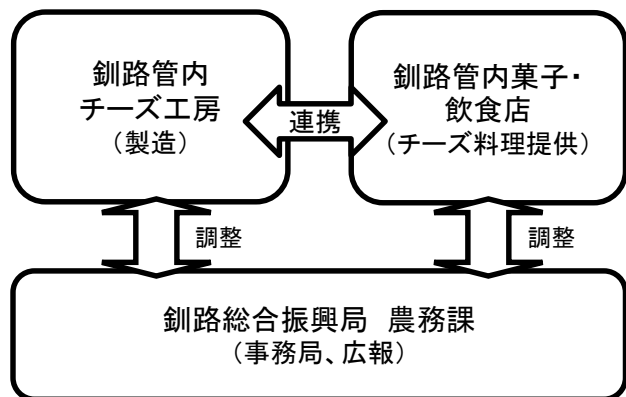
取組成果と今後の展開

- 収量全体に占める雑草の割合は大麦との同伴栽培で14%(管内平均40%以上(裸地含む))と雑草抑制効果が高いという結果となった。
- なお、収量では平年の1番草と比較して94～106%が確保できた。
- 令和5年度は麦類同伴で播種した草地の2年目の植生及び収量調査を実施し、2年目以降の効果を検証する。

現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に伴い、牛乳・乳製品の需要が低調に推移。
- 食文化の変化や健康志向の高まりにより、チーズの国内消費量は年々増加している。
- 釧路管内飲食店、小売店で管内産チーズがあまり提供されていないため、消費者に魅力が十分伝わっていない。

体制図



取組の概要

- 釧路管内のチーズ工房で作られたチーズを使用し飲食店が特別メニューを提供する「チーズなフェアinくしろ」を令和2年度より開催。
- 令和2年度
  - 令和2年11月20日～12月5日
- 令和3年度
  - 令和3年11月19日～12月18日
  - 参加チーズ工房:7工房
  - 参加飲食店:12店舗
  - ・ チーズ工房パンフレットの作成
  - ・ チーズ工房紹介動画の作成
  - ・ チーズレシピ集の作成
- 令和4年度
  - 令和4年10月29日～12月4日
  - 参加チーズ工房:5工房
  - 参加菓子・飲食店:15店舗
  - ・ Instagramで牛乳・乳製品を使った料理写真投稿キャンペーンを行った。



令和4年度「チーズなスイーツフェアinくしろ」パンフレット

取組成果と今後の展開

- 今年度は価格帯が安く、手に取りやすいスイーツを提供したところ、昨年度の提供数595品から、今年度は約1,350品と倍以上に増えた。
- 管内チーズの需要を更に増やせるように、効果的なフェアの運営方法を検討していく。